



未来は、ミルクの中にある。
雪印メグミルク

2018年 3月期

決算報告

2018年5月10日

2018年3月期 連結損益計算書				(億円)
	2017年3月期	2018年3月期	増減額	
売上高	5,879	5,961	+82	
営業利益	187	193	+6	
営業外損益	+15	+16	+1	
経常利益	202	209	+7	
特別損益	▲24	▲19	+4	
税引前利益	178	190	+12	
純利益※	129	133	+3	

※親会社株主に帰属する当期純利益

増減要因	【営業外損益】
	<ul style="list-style-type: none"> 金融収支※：+2億円、持分法投資損益：+2億円
増減要因	【特別損益】
	<ul style="list-style-type: none"> 減損損失：+5億円

※金融収支 = 受取利息 + 受取配当金 - 支払利息

配当	普通配当	40円	連結配当性向	20.3%
----	------	-----	--------	-------

雪印メグミルク

【連結損益計算書（実績）】

売上高、営業利益は、増収増益となりました。

経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益におきましても
ご覧の要因により、増益となりました。

今期の1株当たり配当は、40円といたしました。
配当性向は、20.3%となります。

2018年3月期 | 連結営業利益増減要因の内訳

2017年3月期	2018年3月	増減額	主なセグメント別の増減額		
187億円	193億円	+6億円	乳製品	飲料・デザート類	飼料・種苗
			+4億円	+1億円	+0億円
増益要因 合計		+43	+35	+2	+5
販売物量増加による利益増		20	+18	▲1	+1
コストダウン		10	+10	+0	+0
販売単価差		8	+6	▲1	+4
製品構成差		5	+1	+4	+0
減益要因 合計		▲37	▲31	▲1	▲5
原材料コストの増加		▲13	▲12	▲1	+0
オペレーションコストの増加		▲13	▲6	▲7	+0
宣伝促進費の増加		▲8	▲17	+9	+0

(補足) 主な要因を記載しています。内訳の詳細は、決算短信の補足情報をご参照ください。

雪印メグミルク

3

【連結営業利益の増減要因の内訳（実績）】

乳製品セグメントでは、
 乳価や輸入チーズなどの原材料コストの増加に対し
 販売促進費を投入し、販売物量を増加させ、増益となりました。
 バターやチーズの一部商品の価格改定の効果も貢献しています。
 なお、宣伝促進費の増加には
 ニュートリション事業の先行投資も含まれています。

飲料・デザート類セグメントでは、
 宣伝促進費を効率的に投入し、ドリンクヨーグルトの販売増加により
 プロダクトミックスが改善され、増益となりました。

結果として増減益ネットでは前期比6億円の増益となりました。

2018年3月期 連結貸借対照表				(億円)			
	2017年 3月期	2018年 3月期	増減額		2017年 3月期	2018年 3月期	増減額
流動資産	1,386	1,465	+78	流動負債	1,210	1,406	+196
固定資産	2,028	2,063	+35	固定負債	749	548	▲200
総資産 3,529億円 (前期比 +113億円)				純資産	1,454	1,573	+118

増減要因	
【流動資産】	
➢ たな卸資産：	+54億円
➢ 売上債権：	+42億円
【固定資産】	
➢ 投資有価証券：	+33億円

【流動負債】	
➢ 短期借入金：	+124億円
➢ 仕入債務：	+46億円
【固定負債】	
➢ 長期借入金：	▲202億円
【純資産】	
➢ 株主資本：	+107億円

自己資本比率	43.9%
--------	-------

雪印メグミルク 4

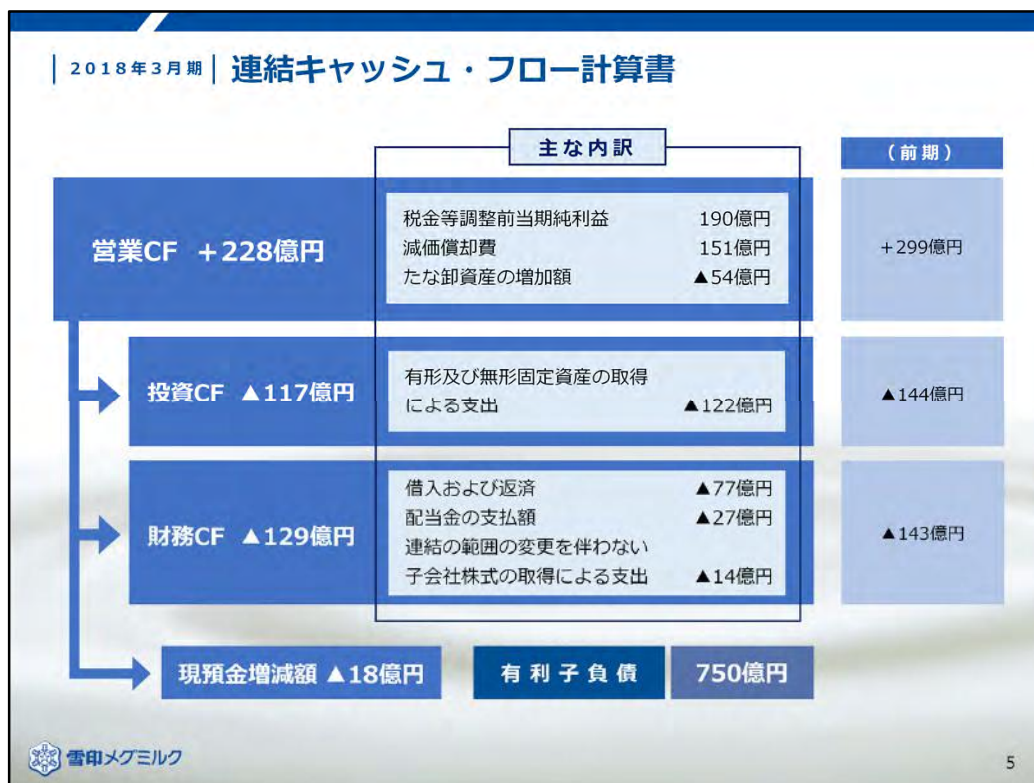
【連結貸借対照表（実績）】

資産合計は3,529億円 前期末比113億円の増加です。
 流動資産の増加は、
 たな卸し資産が54億円、売上債権が42億円増加が主な要因です。
 固定資産の増加は、
 アダー・デライツ・オーストラリア社の株式取得などにより、
 投資有価証券が33億円増加したことが主な要因です。

負債合計は、仕入債務が46億円増加したものの、
 借入金の返済（ネットで77億円）などにより減少しました。

純資産合計は 1,573億円 前期末比：118億円の増加です。
 株主資本が107億円増加，その他の包括利益累計額が10億円増加しました。

連結経営数値ですが、連結自己資本比率は43.9%、
 前期末比で2ポイント改善しています。



【連結キャッシュ・フロー計算書（実績）】

営業活動によるキャッシュ・イン228億円と、投資活動によるキャッシュ・アウト（▲）117億円、さらに財務活動によるキャッシュ・アウト（▲）129億円の結果、現預金残高が（▲）18億円減少しました。

主な内訳はご覧のとおりです。

2019年3月期 | 連結損益計算書

(億円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減額
売上高	5,961	6,050	+88
営業利益	193	190	▲3
経常利益	209	200	▲9
親会社株主に帰属する当期純利益	133	135	+1

業績予想

配当	普通配当	40円	連結配当性向	20.1%
----	------	-----	--------	-------

雪印メグミルク

6

【連結損益計算書（業績予想）】

売上高は 6,050 億円 前期比 88億円の増収、
 営業利益は 190億円 前期比 3億円の減益を見込んでいます。

親会社株主に帰属する当期純利益は、1億円の増益、
 1株当たり配当は、40円を予定しています。
 配当性向は、20.1%となります。

2019年3月期 連結営業利益増減要因の内訳（業績予想）			
2018年3月期	2019年3月	増減額	主なセグメント別の増減額
193億円	190億円	▲3億円	乳製品 飲料・デザート類 飼料・種苗
			▲2億円 +1億円 ▲3億円
増益要因 合計		+83	45 37 ▲1
販売単価差		+36	+35 +0 +0
製品構成差		+31	+7 +24 +0
販売物量増加による利益増		+13	+2 +11 ▲1
コストダウン		+3	+1 +2 +0
減益要因 合計		▲86	▲47 ▲36 ▲2
固定経費の増加（減価償却費を含む）		▲26	▲8 ▲16 ▲1
原材料コストの増加		▲23	▲18 ▲5 +0
宣伝促進費の増加		▲18	▲13 ▲5 +0
オペレーションコストの増加		▲11	▲4 ▲7 +0
<small>2018年度計画前提為替レート 1米ドル=113円 為替感応度（営業利益ベース） 1円高 +1.5億円</small>			
<small>（補足）主な要因を記載しています。内訳の詳細は、決算短信の補足情報をご参照ください。</small>			

【連結営業利益の増減要因の内訳（業績予想）】

乳製品セグメントでは、2億円の減益を見込みました。

乳価や輸入チーズなどの原材料コストの増加として18億円の影響を見込んでいます。

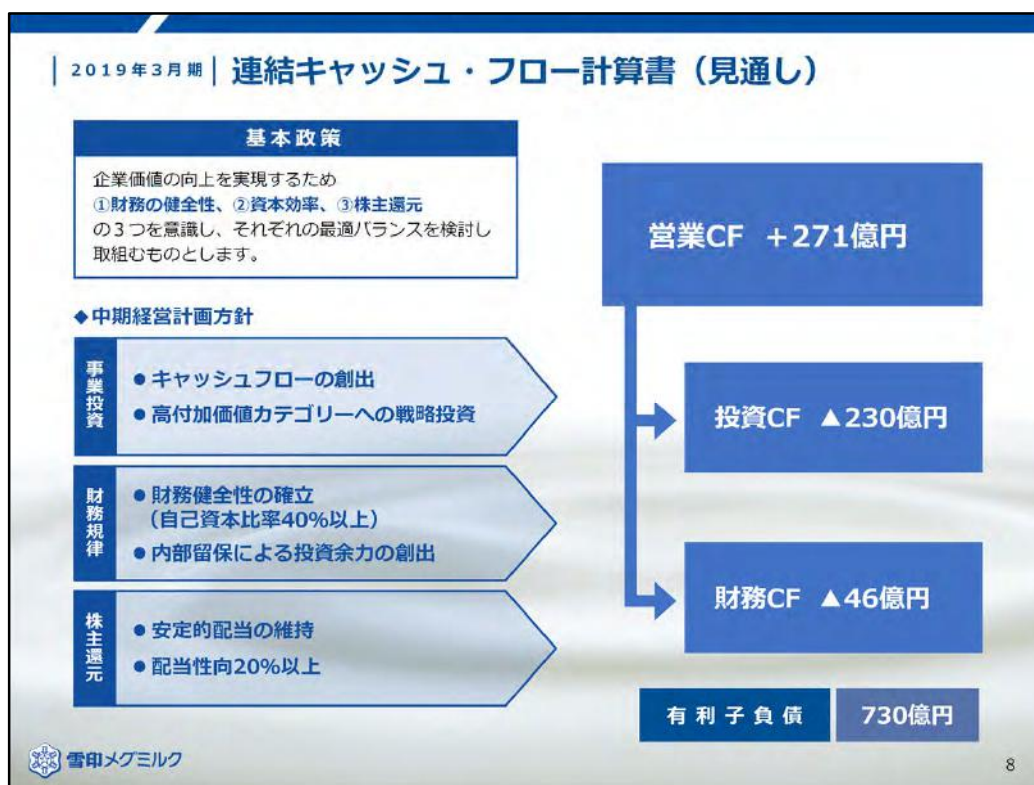
ロジスティクス費用など、そのほかのコストの増加も含めたコスト吸収策のひとつとして、チーズの価格改定を実施させていただきました。

飲料・デザート類では、1億円の増益を見込みました。

将来の収益拡大に向けて新設した小型プラボトルラインの投資効果を最大限に活用し、販売物量の増加、プロダクトミックスの改善で収益拡大に取り組んでいきます。

飼料・種苗セグメント、その他セグメントを含め、

結果として、増減益ネットでは前期比3億円の減益を見込みました。



【連結キャッシュ・フロー計算書（見通し）】

今期は、営業CF 271億円を財源として、
投資CFに230億円、財務CFに46億円と配分予定です。

結果として当期は、リース債務を含みます有利子負債残高は730億円を
予定しており、前期末比で20億円の減少を見込んでいます。

長期ビジョンで定めたキャッシュフロー配分方針に沿って、
「財務の健全性」、「資本効率」、および「株主還元」の
バランスをとり、企業価値向上を目指します。

連結経営指標

	連結業績 2017年度	連結業績予想 2018年度	前期比較	中期経営計画 2019年度	長期ビジョン 2026年度
売上高	5,961億円	6,050億円	+88億円	6,300億円	7,000-8,000億円
営業利益	193億円	190億円	▲3億円	220億円	300-400億円
営業利益率	3.2%	3.1%	▲0.1%	3.5%	4.3-5.0%
EBITDA	345億円	349億円	+3億円	400億円	-
				水準（目処）	
ROE	9.0%	-	-	8%以上	8%以上
自己資本比率	43.9%	-	-	40%以上	50%以上
配当性向	20.3%	20.1%	▲0.2%	20%以上	30%以上

【連結経営指標】

ご覧の表は、中期経営計画および長期ビジョンにおきまして、目標、水準を設定しました進捗になります。

説明してきましたとおり、厳しい環境の中、着実に取組みを進めています。

引き続き、取組みを推進し、目標達成を目指していきます。

未来は、ミルクの中にある。



本資料に記載されている業績予想などの将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した見通しであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の予想数値と異なる場合があります。